

ホクコーモミガード[®]C水和剤

■種類名：銅・フルジオキシニル・ペフラゾエート水和剤
■有効成分：塩基性塩化銅-----7.6%
[銅として-----4.5%]
フルジオキシニル-----2.0%
ペフラゾエート-----12.0%
■化管法指定物質：フルジオキシニル [第1種] -----2.0%

■登録番号：第19736号
■毒性：普通物(毒劇物に該当しないものを指している通称)
■登録初年：1997.10.21
■性状：淡灰色水和性粉末 45µm以下
■有効年限：3年
■包装：100g×100袋、500g×20袋

【特長】

- フェニルピロール系殺菌剤フルジオキシニルと、種子消毒剤として定評のあるペフラゾエート、さらに細菌性病害に安定した効果を示す塩基性塩化銅を効率的に配剤した総合種子消毒剤。
- 湿粉衣処理に便利な水和剤。

【適用内容】(2024年11月末日現在)

作物名	適用病害名	希釈倍数	使用時期	本剤の使用回数	使用方法	銅を含む農薬の総使用回数	フルジオキシニルを含む農薬の総使用回数	ペフラゾエートを含む農薬の総使用回数
稲	ばか苗病 ごま葉枯病 いもち病 もみ枯細菌病 褐条病 苗立枯細菌病 苗立枯病 (トリコデルマ菌) (リゾープス菌) (フザリウム菌)	200倍	浸種前	1回	24時間 種子浸漬	-	1回	1回
	7.5倍 (使用量は乾燥 種籾1kg当り 希釈液30ml)	吹き付け処理 (種子消毒機 使用)又は 塗沫処理						
	乾燥種籾重量 の0.5%	種子粉衣 (湿粉衣)						

【効果・薬害等の注意】

- 使用量に合わせ秤量し、使いきること。
- 種子消毒は浸種前に行い、消毒後は水洗いせずに浸種すること。
- 調製した薬液は、調製当日に使用すること。
- 浸漬処理の場合は、籾と処理薬液の容量比は1：1以上とし、種籾はサラシ網など粗目の袋を用い、浸漬処理中に1～2回攪拌すること。
- 薬液の温度は極端な低温をさけること。
- 吹き付け処理の場合は種子消毒機を使用し、種籾に均一に付着させて乾燥すること。また、塗沫処理の場合は、適当な容器内で種籾を攪拌しながら、薬液を滴下するなどして、種籾に均一に付着させること。
- 粉衣処理の場合は湿粉衣とし、所定量が均一に付着するように容器内で少量ずつ粉衣すること。
- 本剤の処理を行った種籾を浸種する場合は、次の事項を守ること。
 - ◆ 浴比は1：2とし停滞水中で浸種すること。
 - ◆ 水の交換は原則として行わないこと。但し、水温が高い場合など酸素不足になるおそれがあるときは、初めの2日間は行わないで、その後静かに換水すること。
 - ◆ 浸種は停滞水中で行い、河川、湖沼、ため池等では行わないこと。また、残液、廃液はかんがい水路、排水路等に流さないようにすること。
 - ◆ ハトムネ催芽器やエアレーション付きの水槽で浸種する場合、黒色の粘着物が発生する場合がありますので、ハトムネ催芽器ではシャワー循環をやめ水循環のみとすること。また、エアレーション付き水槽ではエアレーションを弱めに調整し時間を短くすること。
- 粉衣した種子は、その旨を明示し、食品などとは区別して保管し、食用、動物用飼料として用いないこと。
- 使用済みの空袋、薬液の調製容器、種子処理に使用した容器、器具などは水でよく洗浄し、その洗浄液はかんがい水路、排水路、河川、湖沼、井戸などの水系へ流さないように処理すること。
- 本剤の処理により、軽度の初期生育遅延を認めることがあるが、その後回復するので通常の管理を維持すること。
- 本剤の使用に当っては使用量、使用時期、使用方法を誤らないよう注意し、特に初めて使用する場合には病害虫防除所等関係機関の指導を受けることが望ましい。

【安全使用上の注意】

- ❖ 本剤は眼に対して刺激性があるので眼に入らないよう注意すること。眼に入った場合には直ちに水洗し、眼科医の手当を受けること。
- ❖ 使用の際は不浸透性手袋などを着用すること。
- ❖ 魚毒性等：水産動植物(藻類)に影響を及ぼすおそれがあるので、使用残液及びび容器の洗浄水等は河川等に流さず適切に処理すること。
浸漬後の薬液は、河川に流さず、水産動植物に影響を与えないよう適切に処理すること。
- ❖ 保管：直射日光をさけ、なるべく低温で乾燥した場所に食品と区別して、密封して保管すること。